



熊本県看護協会 広報誌

看護 くまもと

— KANGO KUMAMOTO —

No.
100
2017年
1月13日発行



祝 100号記念特集号

歴代会長・役員あいさつ
年表で見る「看護くまもと」の変遷
表紙で振り返る「看護くまもと」

会長あいさつ



公益社団法人
熊本県看護協会会長
嶋田 晶子



新春のお慶びを申し上げます。

今年は酉（トリ）年で「果実が極限まで熟した状態」、
「物事が頂点まで極まった状態」が酉年だと言われてい
ます。今年、良い成果が得られる年にしたいと願います。

昨年は4月の熊本地震に始まり、6月の豪雨災害、
10月の阿蘇山噴火と大自然の驚異とも言える災害に見
舞われた大変な1年でした。会員の皆様におかれまし
ては仮設住宅やみなし仮設等で生活されている方や、
まだまだ家の修理等ができず落ち着かない日々をお過
ごしの方も多いのではないかと察じております。

今年度も残すところ3か月となりましたが、熊本県
看護協会の平成28年度事業も皆様のご協力をもちまし
て順調に進むことができしております。

地震の影響で研修の開催が危ぶまれておりました長
期研修も、実習指導者講習会は11月30日に50名が
修了、認定看護管理者ファーストレベル研修も9月21
日に77名が修了、新人看護職員研修責任者等研修も
12月14日に責任者28名、教育担当者40名、実地
指導者39名の計107名が修了、訪問看護養成研修も
12月9日に24名が修了し、残すところ認定看護管理
者セカンドレベル研修のみとなりました。受講にあっ
ては、受講者本人はもとより、参加施設の皆様のご支援、
ご協力のおかげと改めまして感謝申し上げます。

また、11月末には看護協会・看護連盟で平成29年
度の県への予算要望書を提出致しました。特に熊本地
震後の被災地における医療機関の復興支援には看護職
の確保が重要であることから、今まで以上に看護職確
保対策の予算をお願いしたところです。また看護の質
向上の予算としては特に高齢者ケア施設で働く看護職
の人材育成について、在宅ケアの推進については子ど
もと子育て世代を対象にした地域包括ケア推進に向け
た予算を新たに要望いたしました。

平成28年度重点事業に上げております「地域包括ケ
アシステムにおける看護職の役割発揮の推進」として
2月4日（土）に「看護がつなぐ地域包括ケアフォー
ラムin鹿本」を山鹿市民交流センターで開催いたしま
す。NHKの番組「サキどり」に出演されましたコミュ
ニティナース矢田明子氏に基調講演をお願いしており

ます。地域の住民の方々と共に看護の連携を通して、
地域づくりを考える機会となるよう多くの皆様のご参
加をお待ちしております。

さらに、2月26日（日）には看取り支援事業講演会
を県庁地下大会議室で、3月12日（日）には熊本保健
科学大学で平成28年度熊本県看護研究学会を開催いた
します。口演・示説の発表の他、特別講演は「看護の日」
でお呼びすることにしていました大住力氏をお願いし
ております。今年度から看護学生の参加も可能とした
ことから今まで以上に活性化が図られるのではと期待
しているところです。

さて、この「看護くまもと」も1984年（昭和59年）
に社団法人熊本県看護協会の設立と共に第1号が発刊
され、今回で第100号を迎えました。そこで今回は記
念号としてこれまでの広報誌の歴史や、関わっていら
だいた方々の広報誌にまつわる思い出を掲載していま
す。なつかしく思われる方も多いのではないでしょ
うか。組織と会員のパイプ役として、その時々
の協会の活動や社会の変化に伴う情報を掲載し、情
報の共有化を図っています。今回改めて振り返って見
みますと、これまで多くの先人たちの努力の跡が100
号までの歴史の中に記録され、熊本県看護協会がこ
れまでの役員・会員の皆様に支えられて発展してき
たことに改めて感謝の念でいっぱいです。これからも
「看護くまもと」が、皆様により親しまれ充実した
広報誌となるよう努めてまいります。

今、歴史を振り返りますと、1947年に日本助産婦・
看護婦・保健婦協会熊本県支部が設立されてから70
年を迎えます。その後1984年に社団法人熊本県看護
協会を設立、2013年公益社団法人に移行するなど組
織改正と共に現在に至っております。後に続く私
たちは未来に向けて先輩たちの志を受け継いで更なる
発展に向けて努めていかなければなりません。今後とも
皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

平成29年が皆様にとりまして、少しでも安定した年
となりますことを念じ熊本地震からの復興と、皆様
のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

平成29年1月吉日

平成28年

秋の叙勲

受章おめでとうございます

◆ 瑞宝単光章 井手 州子様

熊本県看護協会副会長(前 熊本市立熊本市市民病院看護部長)

永年のご活躍に敬意を表し心よりお祝い申し上げます



平成28年度 看護管理者会(中央開催)に参加して

天草第一病院 看護部長 若山美也子



平成28年11月5日(土)熊本県看護研修センターにおいて、看護管理者会(中央開催)が開催されました。午前中、熊本県看護協会の活動報告と各機能委員会からの報告があり、午後には任期最後となる日本看護協会の坂本すが会長による「これからの看護に期待するもの」と題した特別講演がありました。

坂本すが会長は、今回は少し変わった面白い話をしたいと、前半は会長が看護の道に進まれたきっかけからこれまでの歩みを紹介されました。「なぜ? どうして?」と疑問をそのままにしない子どもだったこと、何事にも前向きに取り組ん

でこられたこと、時々内省して考えを深めてきたことなど、まじめな優等生タイプだったと和やかに話されました。

後半では、国が目指している医療・介護の提供体制を踏まえつつ、日本看護協会では「看護の将来ビジョン」に向かって、看護の量の確保と質の向上を行い、地域包括ケアシステムの構築と推進を図ることを重点課題として、在宅・訪問看護の強化等に取り組んでいくと話されました。

看護管理者の役割に、自施設の看護の質向上と人材育成という大きな課題があります。日本看護協会では、自施設の質を評価改善するためのツールとしてDINQL事業(労働と看護の質向上のためのデータベース事業)を始めており、自施設内や他施設と看護の質を比較検討し、自施設の課題解決につなげることができると紹介されました。

人材育成については、クリニカルラダーを全国共通指標として普及し、看護実践能力の質保証へとつなげていくことを話されました。具体的な活動の説明と、看護に対する考え方に言葉の重みを感じ、看護管理者として今なすべきことがよく理解できました。

新人看護師の育成についても、本来は学校で教育しなければならないことを現場で行っており、看護基礎教育の抜本的な見直しについても取り組んでいくと力強く話して頂き、現場を理解されていることがよく解りました。日本看護協会と熊本県看護協会が一体的に動いている実際を知り、看護管理者として、自施設のみならず支部活動にも積極的に取り組んで行きたいと思いました。そして、何より元気を頂いた講演でした。

「看護くまもと」第100号

熊本看護専門学校校長(元 熊本県看護協会会長) 城 慶子



「看護くまもと」第100号発行おめでとうございます。

振り返ってみますと平成5年3月、熊本中央病院看護部長を定年退職予定で看護協会会長をお引き受けしていたところ、定年が1年延長となり、その後、看護学校副校長と協会長の併任(約10年)になりました。

その間、平成5年、看護管理者「ファーストレベル」研修が始まり、続いて「セカンドレベル」の検討は本部のセカンドレベルの検討委員として参加させて頂き、九州で一番に開講出来た事を会員共々喜んだ事を昨日の様に思い出しています。

また、3年がかりで熊本県に協会立の訪問看護ステーションを2ヶ所(熊本市東部と玉名郡市)設置しました。

協会活動が活発になるにつれて、会館の整備が必要になり、会費値上げ問題が出て来ました。総会で検討の結果、会費値上げより昭和63年に会館が出来上がっていたので、これからの維持運営の事を考えて新入会員に会館整備資金として任意で拠出していただく様にすることが決まり、現在まで続いています。そのおかげで平成13年、駐車場を協会のそばの国有地を買い取り、車90台分を確保する事が出来ました。

看護の社会的地位の向上、看護の質を上げるための拠点である協会活動が十分に安心して行えるための組織作りをその時代の役員さん方と、本務を持ちながらボランティアとして皆様にご支援ご協力をいただきながら頑張った事を思い出しています。事務所の事務員1名で出発した頃の会館の事を知っている者として、感無量です。

今、これからの看護を担って行く人達にエールを送り、看護の素晴らしさ、やりがいのある事を後輩に繋げて行って欲しいと思います。

看護協会の益々のご発展を祈念してご挨拶とします。

熊本県看護連盟会長(元 熊本県看護協会会長) 重松 節美



広報誌「看護くまもと」100号の記念出版を迎えられ誠にありがとうございます。

県看護協会会長として「看護くまもと」に直接携わらせて頂きましたのも7年前となり、月日の過ぎ行く早さをひとしと感じております。

「看護くまもと」の平成28年度のNo96～99号を拝見しながら、1年間に実施されている事業が各種・多様であることを改めて感じました。中でも県看護協会事業の各種研修会・委員会・看護体験等の開催状況や社会貢献に繋がる災害支援関係、県全体に広がる「まちの保健室」事業など沢山の情報・教育資料が掲載されています。特に、「13支部の行楽スポット紹介」では、昨年4月の熊本地震による被災を受けた今だからこそ地域を身近に感じる素晴らしい企画であると感じました。

広報誌は一般に「組織と会員のパイプ役である」と云われています。会員が組織やその活動を理解・認識する手段であると共に、それぞれの会員は自らのこととして役割を果たしていくことが求められていると思います。それには写真・絵・漫画等を取り入れながら、見やすく、読みやすい、いつの間にか読んでしまうような広報誌の作成が求められているのではないのでしょうか。また、知人や友人が掲載されていれば尚更、県看護協会事業への参加意識と共に親しみを感じるものと思います。

これからも「看護くまもと」が、県看護協会の活動を広く会員に知らせるものであると共に、同時に会員の声も反映される広報誌であり続けて欲しいと思います。

最後になりましたが、県看護協会の益々のご発展と共に会員の皆様のご健勝をお祈り致します。

熊本看護専門学校副校長(前 熊本県看護協会会長) 高島 和歌子



「看護くまもと」第100号発行を祝し、ご挨拶申し上げます。

私は県看護協会会長として2回(合計8年間)務めさせていただきました。1回目は平成14年7月から2年間で、「まちの保健室」錦屋デパート開設や15年10月には第8回看護サミットを熊本県と厚生労働省との共催で開催しました。2回目は平成22年6月から今年度6月まででした。この6年間は伝える・理解を得る・意見をいただく・組織的に取り組むということを中心に①看護職の確保と定着推進のための22年からの新人看護職員研修の努力義務化推進、ワークライフバランスの推進支援、看護職・医療職の雇用の質向上支援②組織強化のための看護管理者会の中央とブロック別開催③在宅医療推進のための訪問看護ステーションサポートセンター運営④平成25年4月からの公益社団法人としての県看護協会運営⑤平成26年10月の日本看護学会ヘルスプロモーション学会の開催⑥平成27年10月からの看護職の離職時の届け出制度の努力義務化に伴うナースセンター事業拡大・運営等を行いました。最後の仕事となった熊本大地震避難所への災害支援ナースの派遣では多大なご支援に感謝しています。

県看護協会の事業の実施と充実、会員の皆様のご理解とご支援が基盤です。事業がどのように実施され課題は何かなど、この「看護くまもと」は伝えてきたと思います。また、時には楽しく読んで、県内の隠れた名所やうつくしい写真に目をとめた方も多いたと思います。熊本県看護協会活動の大切な記録であり、財産です。

今後の熊本県看護協会のますますのご発展を祈念し、今後も魅力ある広報紙としての「看護くまもと」に期待し、ご挨拶とします。



100号記念

表紙で振り返る 看護くまもと

Part 1 (No15~36)

 No15 (平成元年9月発行)	 No16 (平成元年9月発行)	 No17 (平成2年1月発行)
 No18 (平成2年9月発行)	 No19 (平成2年9月発行)	 No20 (平成3年1月発行)
 No21 (平成3年9月発行)	 No22 (平成3年9月発行)	 No23 (平成4年1月発行)
 No24 (平成4年9月発行)	 No25 (平成4年9月発行)	 No26 (平成5年1月発行)
 No27 (平成5年9月発行)	 No28 (平成5年9月発行)	 No29 (平成6年1月発行)
 No30 (平成6年9月発行)	 No31 (平成6年9月発行)	 No32 (平成7年1月発行)
 No33 (平成7年9月発行)	 No34 (平成7年9月発行)	 No35 (平成8年1月発行)
 No36 (平成8年9月発行)	 No37 (平成9年1月発行)	 No38 (平成9年9月発行)

発行に寄せて

寄稿 歴代会長・役員・委員

熊本県看護連盟副会長(元 熊本県看護協会副会長・広報担当) 山本 史恵



「看護くまもと」第100号の発行おめでとうございます。私は担当理事(副会長)として、平成16年度から2年間広報を担当し、61号～66号の発行(編集)に携わりました。前担当理事(田中重之副会長)の時、「看護くまもと」が日本看護協会長の表彰を受けておられ、後任としてきちんと引き継いでいかねばと思ったことでした。

まず、広報紙は会員のためにあるとの考えから、出来るだけ情報提供をしようと、「理事会開催状況」の掲載を始めました。熊本県看護協会の重点事業や新しい事業、看護職に関係あるニュースもできるだけ載せました。私がやり易かったのは、県看護協会に勤務していて、会長や事務局職員と常に話し合いが出来たことでしょうか。今、「看護くまもと」が100号に至るまで継続され、年々内容も充実していますことは、関係者のご努力のたまものと存じます。

なお、私は県看護協会に、役員及び訪問看護ステーション事業部長として8年余在職しました。中でも、役員として「まちの保健室」設置に関わったことや、事業部長として訪問看護の運営に取り組んだことが思い出されます。しかし、何よりも、県看護協会ですべての仕事ができたことは、私にとって貴重な経験であったと思っています。

最後に、熊本県看護協会が、公益社団法人として、今後ますます発展していけますよう祈念いたしております。

株式会社ビューグル 代表取締役(第一号広報委員長) 三宅 真理子



看護くまもと創刊100号おめでとうございます。

私たちが第一号を出したと伝えられ、自分でも驚いております。まだ、若いころの話であり、記憶が定かではありませんが、携看護部長が支部長さんでした。締め切りが過ぎて、連絡して熊本大学病院の看護部長室に原稿をいただきに上がったことを、覚えております。

看護協会も大学病院の近くの、長崎ビルの一室で、作業をしていたように記憶しています。会員数も現在の半分にも満たないくらいの数で、本当に質素で小さい事務所でお金をかけない、新聞を作成していたような思い出です。

その後は会員一丸となって、会館建設に向け積み立てをして、東町の現在の地に会館が建設されたときの感動は、今でもすごい力だと感じています。先輩諸姉の努力と、組織力の強さの賜物でしょうか。会員数も年々増え、今現在公益法人として大きな組織を持つ団体に成長いたしました。会報誌もカラー印刷でページ数も増え、熊本県看護協会の動きが詳細に報じられています。今回の熊本震災での活躍や、県の委託事業など看護の底力が掲載され、心が躍るような気持ちで毎号読ませていただいています。

大事な会員をつなぐ広報誌として、今後ますます発展、充実されますことを心より、祈念いたします。

本当におめでとうございます。

個人会員(第一号広報委員) 堀内 香代子



「看護くまもと」第100号の発行、おめでとうございます。

保健婦・助産婦・看護婦部会が一本化され熊本県看護協会となる前、保健婦部会の出版委員として、機関誌「保健婦」の発行をしていたことは徹かに覚えております。その後「看護くまもと」の発行にも関わっていたことを思い出してみますと、看護協会の三職能が一本化され、各職能が入り交じって活動するのは初めてのことで、職種も職域も異なる委員の皆さんとの交流はとても新鮮でした。保健師になって10年目くらいの頃で、委員会に出席すると視野が広がり、人脈も広がるという気がして、意義を感じ活動していたように思います。当時委員長であった三宅さんからは、先駆的に取り組まれていた「在宅看護」の話を興味深く聞いたことを思い出しました。

委員会活動などは大変ですが、やってみると価値の大きさに気づかされるものです。発行から32年が経ち、1号がどんな内容だったのか忘れてしまいましたが、思い出せる自分の財産として「委員会活動」が残っているのは幸いです。今でも「看護くまもと」に紹介されている委員会活動を楽しみにしています。



100号記念

表紙で振り返る
看護くまもと

Part 2 (No37~57)



No.37 (平成8年10月発行) No.38 (平成9年1月発行) No.39 (平成9年5月発行)



No.40 (平成9年10月発行) No.41 (平成10年1月発行) No.42 (平成10年5月発行)



No.43 (平成10年10月発行) No.44 (平成11年1月発行) No.45 (平成11年5月発行)



No.46 (平成11年10月発行) No.47 (平成12年1月発行) No.48 (平成12年5月発行)



No.49 (平成12年10月発行) No.50 (平成13年1月発行) No.51 (平成13年5月発行)



No.52 (平成13年10月発行) No.53 (平成14年1月発行) No.54 (平成14年5月発行)



No.55 (平成14年10月発行) No.56 (平成15年1月発行) No.57 (平成15年5月発行)

年表で見る「看護



100号記念

表紙で振り返る 看護くまもと

Part 3 (No58~78)

 No58 (平成15年10月発行)	 No59 (平成15年1月発行)	 No60 (平成15年5月発行)
 No61 (平成15年10月発行)	 No62 (平成17年1月発行)	 No63 (平成17年5月発行)
 No64 (平成17年9月発行)	 No65 (平成18年1月発行)	 No66 (平成18年5月発行)
 No67 (平成18年9月発行)	 No68 (平成18年12月発行)	 No69 (平成19年3月発行)
 No70 (平成19年9月発行)	 No71 (平成20年1月発行)	 No72 (平成20年5月発行)
 No73 (平成20年9月発行)	 No74 (平成21年1月発行)	 No75 (平成21年5月発行)
 No76 (平成21年9月発行)	 No77 (平成22年1月発行)	 No78 (平成22年5月発行)

トピックス 世界／日本看護協会

看護教育100周年記念式典
チェルノブイリ原子力発電所事故発生
ソウル五輪開催
旧厚生省「看護の日」(5月12日)制定
バブル崩壊
バルセロナ五輪開催
神戸研修センター開所
認定看護師管理制度発足
アトランタ五輪開催
認定看護師制度発足
阪神淡路大震災発生
地下鉄サリン事件
専門看護師制度発足

会長	橋 楠子		上田 益代		木場 富喜		城 慶子									
年	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
号数	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11

九州初の「認定看護管理者セカンドレベル研修」受講者の記事掲載(45号)

41号より表紙付広報誌に変更

三職能委員会報告記事掲載開始(38号より)

フレッシュコーナー(37号)／37号よりA4版へ変更

「看護くまもと」のあゆみ

第1号発行

3回／年発行

通常総会記事掲載開始

「看護の日」(5月12日)制定無償記事掲載開始(28号より)

26号よりA5版でカラー印刷へ

高校生の「日本看護協会の体感記事掲載開始(28号より)

95号の同じ記事

91号の同じ記事

熊本県看護協会のあゆみ

社団法人設立／4地区支部設置

熊本南地区支部設立

熊本県看護研修センター落成

訪問看護師養成研修会開始

熊本県看護研修センター落成

無料職業紹介所開設(ナースバンク)

訪問看護師養成研修会開始

日本看護学大会老年看護学大会開催

日本看護学大会看護管理学会開催

訪問看護ステーションくまもと開設

日本看護学大会看護管理学会開催

ファーストレベル研修開始

熊本北支部設立

セカンドレベル研修開始

訪問看護ステーションくまもと開設

日本看護学大会看護管理学会開催

「くまもと」の変遷

新会報情報管理律制「アズシン」への移行
 リオシシエイロ五輪開催／熊本地震発生

医療介護総合確保推進法成立

ロンドン五輪開催
 九州北部豪雨災害発生
 東日本大震災発生
 公益社団法人へ移行

新潟県中越沖地震発生

北京五輪開催

新潟県中越沖地震発生

新潟県中越沖地震発生／アテネ五輪開催
 新会報「日本看護協会ビル」完成

保険業法改正で「看護職」の名称が
 「師」に統一される

ニューヨークツインタワーの崩壊

シドニー五輪開催

		高島 和歌子			重松 節美			高島 和歌子			橋田 晶子					
2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
47 49	50 52	53 55	56 58	59 61	62 64	65 67	68 70	71 73	74 76	77 79	80 82	83 85	86 88	89 92	93 96	97 99

熊本地震での「災害支援ナーズの活動」(98号～99号)

「13支部行楽スポンサー紹介」(94号～99号)
 各委員会を取り組み紹介(95号より)

「がんばれナース」(88号～98号)
 4回／年発行へ

「ワークライフバランス取り組み施設紹介」(89号～92号)
 「看護協会へようこそ」(87号)

四コマ漫画開始(70号～96号)

「看護くまもと」読者アンケート(68号)

「のぞいてみよう」委員会活動「56号～57号」

「ボイスコーナー」(52号～62号)

「のぞいてみよう」支部活動「50号～54号」
 50号より広報誌の紙質を現在のものに変更

「アズシン」(47号)として熊本県看護協会とそのときの話題を掲載(47号～51号)
 49号の全面カラー印刷の広報誌へ変更／機関紙「コンクール」にて「企画記事賞」受賞(47号)

看護師等の届出制度開始
 医療事故調査等支援団体となる
 日本看護学会へ「アズシン」を登録
 看護師職能IIを登録

公益社団法人へ移行
 災害支援活動に関する協定を県で締結

新人看護職員研修責任者研修会(看護部)訪問看護サポートセンター設置

日本看護学会看護管理学会開催

日本看護学会小児看護学会開催

熊本北支部廃止(県内13支部と女の会)

第10回日本日本看護協会「アズシン」をテーマとする

専用紙車庫竣工
 熊本看護大学看護学部看護学専攻(看護学)開設
 日本看護学会看護部看護部看護部(看護学)開設

居室介護支援事業所くまもとながが開設

100号記念 表紙で振り返る 看護くまもと

Part 4 (No79~99)

No79 (平成22年9月発行)

No80 (平成23年1月発行)

No81 (平成23年5月発行)

No82 (平成23年9月発行)

No83 (平成23年12月発行)

No84 (平成24年4月発行)

No85 (平成24年9月発行)

No86 (平成25年1月発行)

No87 (平成25年5月発行)

No88 (平成25年9月発行)

No89 (平成25年1月発行)

No90 (平成26年5月発行)

No91 (平成26年9月発行)

No92 (平成27年1月発行)

No93 (平成27年5月発行)

No94 (平成27年9月発行)

No95 (平成27年11月発行)

No96 (平成28年1月発行)

No97 (平成28年5月発行)

No98 (平成28年9月発行)

No99 (平成28年11月発行)

認定看護管理者ファーストレベル研修

恩賜財団済生会熊本病院 救命救急HCU 主任 柴尾 嘉洋



ファーストレベル研修を修了してまず初めに感じたことは、これまで、ファーストレベルほど「学んだことをすぐに現場で実践できる研修」を受けたことがないと感じました。私が勤務する高度急性期病院の集中治療室における看護ケアは、多職種と連携した合併症予防と早期回復が重要課題です。そこで、看護管理者に必要な問題解決思考、看護ケアの質評価の方法、看護師と多職種との業務の補完体制構築、労務管理に必要な法律・制度を学びたいと考え、本研修を受講しました。

看護サービス提供論で、医療の質を評価する3つの視点を学ぶことで、看護管理における視野が広がりました。今までアウトカムにはばかり着目していましたが、看護管理者として、プロセスの改善や構造の見直しを行うことが重要であることを学びました。また、プロセスやアウトカムを評価するデータや指標の重要性を学び、DPC包括データ等を用いた、具体的な看護の質の評価方法などを学びました。

さらに、SWOT分析を活用し、部署の強みや弱み、内部環境や外部環境を客観的に見ることで、新たな課題を見いだすことができ、弱みは考え方や看護管理者のマネジメントにより、強みに変わるプロセスに感銘を受けました。この学びを生かし同じ目標に向かって、多職種が協力できるように働きかけるグループダイナミックスの方法や人材育成論を活用しながら、質改善を目指していく一方で、労務管理の視点から、ワークライフバランスの管理も行っていきたいと思えます。

熊本県看護学生実習指導者講習会

山鹿温泉リハビリテーション病院 松尾 政美



この度、平成28年9月21日から、11月31日までの約2ヵ月半の実習指導者講習会を受講する機会に恵まれました。

平成28年4月は、熊本地震が発生し、私たち看護師も被災者となり、普段とは違う状況の中、仕事をするというめまぐるしい状況でしたが、開講式には無事50人全員がそろいました。

受講生は、看護師としての経験年数も長く、指導の経験もあるベテランから、私のように今後看護学生指導にたずさわる者とさまざまです。当院は、現在学生の受け入れはなく、私も指導者としての経験がないため大変緊張し、ついていけるか心配でした。

研修期間中は、平日に講義を受け週末には日勤や夜勤と業務をこなしながらの日々でした。そのため月曜日の講義中は眠くなることもありましたが、熱心に講義して下さる先生の姿や時折語られる看護観に何度も胸を熱くしました。また、県北や県南の遠距離から毎日通い、熱心に受講する仲間の姿にも励まされ私の不安も解消されました。

今後の日本は、少子高齢・多死社会を迎えると言われていています。看護職においても少子化により看護職のマンパワー不足が考えられます。今回の実習指導者講習会では、看護学生を受け入れる意義として後輩を育てる社会的責任があること、そして学生指導を通して指導者が学生と共に学ぶことで生涯学習としての意味を持つと学びました。グループワークでは、各施設の実習指導の現状を振り返り討議し、学生に関心を持つこと、学生に生き生きとした実践を直接行動で見せること、看護師がロールモデルとしての役割を担うことが大切であると考え、指導案とスタッフ向けのツールを作成しました。

これから私は、学生指導者として新たな一歩を歩み始めます。指導することはとても難しい部分もあると思いますが、そこから得られることもたくさんあると思えます。研修で学んだ知識や、構築したネットワークを生かし実践に生かしていきたいと思えます。

訪問看護師養成研修会

八王寺の杜訪問看護ステーション(菊陽病院) 桂 昭博



今回職場異動に伴い、訪問看護師養成研修会への参加を上司に急遽勧められ、初めは研修に対して消極的な感情を抱いていました。しかし、いざ蓋を開けてみるといつの間にか消極的な感情が消え、気づいた時にはもっと学びたいという積極的な感情が強くなっただけでなく、研修を楽しみにしている自分がいました。実際研修では訪問看護概論から各論、そして地域実習を経験することができ、講師の先生方々や実習先でのスタッフの方々の在宅医療に対する思い、そして研修で共に学び合っているメンバーの訪問看護に対する強い思いがヒシヒシと伝わり、在宅で患者さんをどうにか支えたいという気持ちが高まりました。これから在宅で様々な問題に遭遇するかと思えますが、研修での学びを活かして対処していきたいと思えます。

また今回研修で学び合った仲間を得られたことも大きな収穫でした。研修期間は仕事と兼務でかなり疲れもありましたが、終えたときには参加して良かったと心から思えたので、訪問看護を目指す方にこの研修に参加することを是非お勧めしたいと思います。

看護師職能委員会Ⅱの活動紹介



多様な住まいの場における看取りケア研修会について

熊本県看護協会看護師職能Ⅱ 担当理事 開田ひとみ

看護師職能Ⅱは、平成26年に看護師職能Ⅰから独立して活動を開始し、3年目を経過しています。看護師職能Ⅱの領域は、介護施設に勤務する看護職員、在宅ケア分野に勤務する看護職員を対象としていますが、活動を知ってもらう機会も少なく周知はまだ十分ではないと認識しています。

看護師職能Ⅱの領域で勤務する看護職の課題は、「少子高齢社会」に伴う社会の変化、医療提供体制の変化の中での看護の提供であり、特に「認知症ケア」と「看取りケア」が課題であるといえます。そこで、熊本県看護協会は、平成27年度より熊本県の委託事業として「多様な住まいの場における看取り支援事業」に取り組んでいます。看護師職能Ⅱは看取りケア研修への講師等で事業に協力しています。

まず、平成27年7月、熊本県における看取りケアの現状を知ることが目的に、多様な住まいの場である介護保険施設と居住系施設の1155施設に対してアンケート調査を実施し、414施設（回収率35.8%）から回答を得ました。

アンケート結果は表に示す通り、看取り数は多くはありませんでしたが、多くの施設から「入居者は85歳以上が殆どを占め、看取りケアは喫緊の課題であり、積極的に看取りケアを行っていきたい」という意見が多くでした。

一方で看取りを推進できない理由も明らかになったため、平成28年8月から10月にかけて八代市において、施設の看護職・介護職を対象に「多様な住まいの場における看取りケア研修会」を開催しました。研修参加者は、毎回、100名を超え、おおむね良い評価を得ています。

今後も、看護師職能Ⅱの委員全員が協力し合い、多死時代の到来に対応していくために多様な住まいの場における看取りケアの推進に向け努力していきたいと考えています。

アンケート調査結果

看取りの多かった施設	平均看取り件数	最大看取り件数
1位 介護老人福祉施設	5.42件	28件
2位 介護老人保健施設	5.13件	20件
3位 グループホーム	1件	10件

～看取りを推進できない理由～

- ①多くの職員が死や看取りに対する不安を持っている。
- ②職員の多くが看取りケアに対する知識と経験が不足している。また、学ぶ場や機会が少ない。
- ③看取りケアに関する入居者の家族の認識と職員の認識が乖離している

「多様な住まいの場における看取りケア研修会」プログラム

月日	テーマ	項目	時間
8/14 (日)	看取りケア	看取り体制	4時間
		看取り体制 ディスカッション	2時間
8/21 (日)	医学の基礎知識	死の動向 死のプロセス 死亡診断	4時間
	看取りケア	看取りに関する考え方	2時間
9/4 (日)	看取りケア	安楽なケアの提供(症状緩和)	6時間
9/10 (土)	看取りケア	デスクカンファレンス	3時間
		コミュニケーションスキル(傾聴・共感)	3時間
10/2 (日)	家族ケア	家族の機能と感情・情緒的なつながり	2時間
		グループケア	
	医療機関との連携	医師との連携	4時間
		介護支援専門員との連携	
訪問看護師との連携			
		施設ケアマネジャーによるチームアプローチ	

講演会のお知らせ

「皆さん、最期はどこで迎えたいですか」
～多様な住まいでの医療の関わり～

日時：平成29年2月26日(日)14:00～16:00

講師：後藤慶次氏

(ひまわり在宅クリニック院長)

場所：熊本県庁 行政棟本館 地下大会議室
熊本市中央区水前寺6-18-1

【看護師職能委員会Ⅱメンバー】

委員長 開田
副委員長 安藤
委員 金森・木下・蔵原・白川
牧野・宮原・村上

平成28年度熊本県看護研究学会

開催日時 : 平成29年3月12日(日) 9:30~15:20
会場 : 熊本保健科学大学 50周年記念館・3号館
演題 : 研究発表20題 看護管理実践報告4題(予定)
講師 : 大住 力 氏
(ソコリキ教育研究所 所長・公益社団法人「難病の子どもとその家族へ夢を」代表)

講師プロフィール

おおすみ りき
大住 力 氏

「ソコリキ教育研究所」所長
公益社団法人「難病の子どもとその家族へ夢を」の代表 理事



1965年生まれ。大学卒業後、1990年株式会社オリエンタルランド入社。ゼネラルサービス部カスタディアル課に配属。1993年、新パーク事業部に異動。「東京ディズニーシー」「イクスピアリ」など、ビッグプロジェクトの立ち上げや運営、マネジメントに携わる。その後、人材教育、経営企画など、20年間ディズニーランドの最前線から中枢までさまざまな仕事を経験する。また、社内で「ウォルト・ディズニー研究会」を立ち上げ、現場スタッフのモチベーションアップや、ディズニー哲学の浸透に尽力する。

2009年同社を退社、2012年「ソコリキ教育研究所」を設立。大手企業から中小企業、学校、病院など100社以上に、マネジメント、ホスピタリティ、コミュニケーション、組織活性、理念浸透などをテーマとした研修や講演を提供。ハウステンボス株式会社の再生事業に顧問として参画。一方、公益社団法人「難病の子どもとその家族へ夢を」の代表理事も務め、難病と関わる子どもとその家族への支援にも力を注いでいる。

著書に『一生の仕事が見つかるディズニーの教え』『もしもディズニーが店長だったら』（日経B P社）、『ディズニーの現場力』（かんき出版）など。

会場アクセス

〒861-5598 熊本市北区和泉町325 学校法人 银杏学園 熊本保健科学大学
ホームページ：<https://www.kumamoto-hsu.ac.jp>



平成29年度熊本県看護協会 改選役員及び推薦委員 平成30年度日本看護協会 代議員及び予備代議員の立候補・推薦について

— 選挙管理委員会 —

平成29年6月24日(土)に開催される平成29年度通常総会において、熊本県看護協会の改選役員及び推薦委員、平成30年度の日本看護協会代議員及び予備代議員の選挙を実施いたしますので下記のとおり、立候補者の受付についてお知らせいたします。

なお、公益社団法人熊本県看護協会役員等及び公益社団法人日本看護協会代議員・予備代議員は、平成29年6月の通常総会において選出されます。つきましては、平成29年度総会により改選される以下の役員、委員及び代議員・予備代議員に立候補される方は、以下の要領により届け出をしてください。

■平成29年度 公益社団法人熊本県看護協会 役員:5名

(任期:2年 平成29年6月総会終結後～平成31年総会終結まで)

有明・鹿本地区理事1名、菊池・阿蘇地区理事1名、熊本南地区理事1名、上益城・宇城地区理事1名、天草地区理事1名

■平成29年度 公益社団法人熊本県看護協会 推薦委員:8名

(任期:1年 平成29年6月総会終結の翌日～平成30年総会終結まで)

保健師職能2名・助産師職能2名・看護師職能4名
計8名

■平成30年度 公益社団法人日本看護協会 代議員並びに予備代議員:計20名

(任期:1年 平成30年4月1日～平成31年3月31日)
代議員10名 予備代議員10名

<①立候補の届け出について>

立候補される方は公益社団法人熊本県看護協会選挙及び選挙管理委員会に関する規程第13条第2項に基づき、本会正会員5名以上の推薦を受け届け出てください。

<②立候補の届出期間について>

平成29年1月24日～平成29年4月21日(必着)

<③届出方法>

「届出書」 ①立候補届出書 ②立候補推薦書

<④選挙期日及び場所>

平成29年度公益社団法人熊本県看護協会通常総会
期日:平成29年6月24日(土)

場所:熊本県立劇場(演劇ホール)

※様式については熊本県看護協会事務局へご請求ください。
TEL:096-369-3203

「届出先」 〒862-0901 熊本市東区東町3丁目10-39
公益社団法人熊本県看護協会
選挙管理委員長 原田 貴子 宛

平成28年度 熊本県看護協会の理事会開催状況 (平成28年11月～平成28年12月)

平成28年度 第7回理事会 平成28年11月17日(木) 13:30～

- I-1.平成28年度熊本県看護協会第2次補正予算(案)について
- I-2.平成28年度委員会中間報告・評価について
- I-3.「看護くまもと」100号の企画(案)
- I-4.平成29年度熊本県看護協会教育計画(案)
- I-5.第2回支部長会プログラム(案)
- I-6.第50回(平成31年度)日本看護学会学術集会の開催について
- I-7.熊本県看護協会・看護連盟合同研修会講師(案)について
- I-8.熊本県看護研究学会での学生参加費(案)について
- I-9.平成28年度専門看護師・認定看護師と看護管理者交流会開催(案)について

平成28年度 第8回理事会 平成28年12月15日(木) 13:30～

- I-1.平成28年度熊本県看護協会事業評価(案)について
- I-2.平成29年度熊本県看護協会運営並びに事業に対する提案・要望(案)について
- I-3.平成29年度日本看護協会名誉会員候補者及び日本看護協会長表彰者推薦について
- I-4.平成29年度日本看護協会総会代議員研修会開催(案)について
- I-5.平成29年度熊本県看護協会予算要望について
- I-6.平成28年度熊本県看護協会・熊本県看護連盟合同研修会について
- I-7.平成28年度～看護がなくなる地域包括ケアフォーラムin熊本～開催要項(案)について
- I-8.平成28年度セカンドキャリア研修会(案)について
- I-9.平成28年度役員・職員・支部長研修会(案)について

平成29年度の継続申請・入会申込はお済みですか？

現在平成29年度の継続・入会を受け付けております。
平成28年9月頃に新会員証と共に入会申込書を送付しておりますが、届いていない方は申込書をご請求ください。

注意！

申請書を会員登録事務局(私書箱宛)に送付された方は継続の手続きが開始されております。
継続されない方の申請書を会員登録事務局(私書箱宛)に同封された施設につきましては、今一度ご確認のうえ熊本県看護協会までご連絡ください。
※退職者分の申請書を熊本県看護協会へ返却頂いた施設につきましては、該当しません。



看護がつなぐ地域包括ケアフォーラム in 鹿本

“地域を元気にする看護”ってどんなこと？ 一緒に考えましょう！

日時 平成29年2月4日(土)
13:00~16:30

会場 山鹿市民交流センター

参加費 無料

講演 「市民と共に地域をつくるコミュニティナース」

講師 矢田 明子氏(コミュニティナース)

リレートーク：「山鹿市における地域包括ケアの現状と推進に向けて」
山鹿市内の医師・看護職、住民の方など



NHK「サキどり」に出演

主催：公益社団法人熊本県看護協会 Tel. 096-369-3203 後援：熊本県・山鹿市・一般社団法人鹿本医師会

新刊案内 New publication guide

書名	副題	出版社
NANDA-看護診断	定数と分類2015-2017	医学書院
看護白書		日本看護協会出版会
いのち輝くいい話②	忘れられない看護エピソード	日本看護協会出版会
臨床看護	心と身体がよみがえる4つのメソッド	日本看護協会出版会
ナースから看護科長まで看護実践がしるべきこととよな話!		日本看護協会出版会
診療報酬・介護報酬のしくみと考え方	改定の意図を知り看護管理に活かす	日本看護協会出版会
看護の基本となるもの 再新装版		日本看護協会出版会
訪問看護師は「所長」で言つ!		日本看護協会出版会
ナーシングマッサージ入門	日々のケアにプラスして患者の安楽性を促す	日本看護協会出版会
はじめてのタクティールケア	手で触れて痛み苦しみを緩和する	日本看護協会出版会
看護科長主任のための成果の見える看護目標の立て方	現状分析からスタッフの計画立案支援まで	日本看護協会出版会
最新老年看護学		日本看護協会出版会
できる!認知症ケア加算マニュアル		照林社

熊本県看護協会会館 整備資金納入施設名簿

平成28年11月1日~平成28年12月31日

施設名	件数	金額
公立玉名中央病院	23	690,000
阿蘇医療センター	1	30,000
くまもと森都総合病院	23	690,000
熊本地域医療センター	20	600,000
荒尾市民病院	14	420,000
合計	81	2,430,000

編集後記

明けましておめでとうございます。

今年の元旦は晴天に恵まれ、皆さん、初日の出を拝むことが出来ましたでしょうか。

昨年は熊本地震という大きな出来事がありましたが、今年は平穏な一年であることを心より祈っております。

「看護くまもと」は今回100号を発行することが出来ました。初刊からの広報誌を振り返る中で、看護協会のいろいろな発見がありました。33年の歩みを年表でたどってみてください。今回より、表紙も新しくなり、より一層内容を充実し、会員の皆様ご様に様々な情報を伝えて行きたいと思っておりますのでこれからの「看護くまもと」も楽しみにしてください。

文責/担当理事 耕 理千子

看護くまもと 第100号

発行日 平成29年1月13日

発行者 嶋田晶子

編集者 広報委員会

発行所 公益社団法人 熊本県看護協会
熊本市東区東町3丁目10番39号

TEL 096-369-3203

FAX 096-369-3204

URL <http://www.kna.or.jp>

会員数 15,431名(平成29年1月1日現在)

表紙写真:天草大多尾漁港の朝日